

## 心の通った相談活動を目指して

コロナ禍にあって、子どもたちや教職員、保護者の皆さんの悩みやストレスは、多様化、複雑化していると感じます。このようなときにこそ、私たち学校訪問カウンセラーは、相談者の悩みやストレスの緩和を願い、心の通った相談活動に努めています。

相談活動の成果は見えづらいのですが、次のような話を耳にすると、うれしくなります。

娘の面談を希望したのは、娘が友人関係に疲れていると感じたからです。私も、小学生のころは人との関わりが苦手な、図書室が居場所でした。図書室の静かな雰囲気や、うなずきながら話を聴いてくれる図書室の先生存在に癒され、また頑張ろうと思えました。当時、学校訪問相談があったら、相談室を訪れたと思います。

(保護者Aさん)

Bさんはとても我慢強く、担任の私にもなかなか弱音を吐きません。弟妹が多いので、父母の愛情を独り占めする時間も自分の時間もなく、ストレスも多いのではと心配です。相談室とカウンセラーさんを独り占めできる面談時間は、Bさんにはかけがえのない時間なのでしょう。面談後は満ち足りた表情です。(担任C教諭)

どのような状況下にあっても、悩みやストレスを抱えている子どもは、必ずいます。話を聴いてくれる人や一緒に悩んでくれる人、気持ちを受け止めてくれる人、励ましてくれる人を求めています。そんな子どもには、心の通った相談活動が望まれます。

学校訪問カウンセラーによる相談活動は、外部性、独自性、中立性を特徴とし、傾聴が中心ですから、相談者に「知らない人だから話せる」「相談の秘密が守られるので話せる」「気持ちを受け止めてもらえそうだ」といった安心感を与えることができます。

温かなまなざしで出迎え、気持ちに寄り添いながら話に耳を傾け、「不安なことや心配なことがあったら、いつでも来てね」と声をかけて送り出す――。このように心がけている相談活動が、子どもの心の安定や、学校が行う教育相談や生徒指導への側面からの支援につながることを、私たち学校訪問カウンセラーは、切に願っています。(文責 学校訪問相談部 藤田)





# 必読！「子どもと共に学級づくり！」



子どもが過ごす学級の価値とは？一人一人の子どもが(担任を含めて)この学級でよかったと思える学級づくりのポイントは？上越市立教育センター研修「学級づくり研修」(講師；橋本定男先生(新潟薬科大学非常勤講師))の内容から、今からでも活かせる内容を紹介します。

## 1 太陽アプローチ(いっそう楽しい学級づくり)と北風アプローチ(学級づくりのバージョンアップ)



太陽アプローチ；居心地の良さアプローチ

子ども理解・信頼関係作り…母性原理

4月の学級開き、日常生活においては、太陽アプローチで子どもと関わります。「あたたかい学級」「支持的風土」となるよう安心、安全な学級、子どもとの信頼関係作りに努めます。



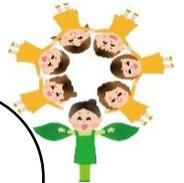
北風アプローチ；ルール作りアプローチ

規範意識…父性原理

北風アプローチを意識して「だめなものはだめ」の学級の文化づくりに取り組みましょう。トラブルについて、通常見せていない子どもの思っていること、願っていることを引き出すような話し合いになるようにしましょう。

この2つのアプローチは、どちらも必要です。そして、太陽アプローチを子どもと関わる土台とします。割合は太陽：北風＝8：2です。では、北風アプローチが必要になるのはどんなときでしょうか。それは、学級のルールが破られたときです。そんなときに、「どうしたらいいの？」とオタオタする、「お前たち！これでいいのか！？」「先生は許しません。」と教師が叱るのでは、学級にトラブルを乗り越える力は身に付きません。

### 【トラブルを解決していく仕組みを学級に作るときポイント】



- ①話合う適切な問題を選び、教育的な意味をもたせます。教師は常日頃から学級の様子を観察し、問題に気付く目を高めておくことが大切です。  
※学級での話し合いに「いじめ問題を取り上げることは適切ではありません。」
- ②学級目標のルールを守らない友達に気付いた子どもに、個別に「先生大事だと思うけどみんなに言ってみない」と声を掛け被害者から声をあげる形をつくります。(根回しは大切)
- ③話し合いで建設的な意見を発せられるように、前日までに同調してくれそうな子どもたちに声を掛けておきます。(根回しは大切)
- ④話し合いを通して、子どもの主張やルールについて感じていたことをすり合わせ、「私たちの学級はこれでいいの？」と子どもが主体的に学級のルールを守ることなどについて意味をつくるようにします。
- ⑤「うちのクラスいいね！」など、問題を学級で解決したことから学級の成長を感じられるようにします。

学級の問題は、子どもによる話し合いで乗り越えていくことが大切です。

「あたたかい学級、支持的な風土」を学級づくりのゴールにするのではなく、学級づくりを通して「問題解決集団」になることを目指します。約束が決まったときは「この学級

は〇〇を目指すことになったんだよね。」と子どもたちが決めた内容に教師が意味付けをすることも大切です。

## 2 ドラマをつくる

### ～ 学級は何を目指すのか、そのために教師はどのように働き掛けるのか ～

「どんな学級をつくりたいのですか？」 「そのために、何に取り組んでいるのですか？」  
この問いに、自分の言葉で自分の学級づくりについて語れますか。

#### ある中学校での合唱コンクールのエピソード

10月に入り、今年も合唱コンクールの練習が始まった。3年生にとっては中学校生活最後の大会。どのクラスも熱が入る。我が学級も合唱コンクールに向けて昼休みも練習計画を立てて、取り組むことになっていたが・・・約束を守らず遊んでいる男子が多く練習にならない。合唱コンクールへ向けて、他のクラスは一生懸命に取り組んでいるのに。とうとう、女子たちが担任に泣きながら訴えてきた。「男子をどうにかしてください。」

このとき、あなたが担任ならどうしますか。

「許せない！」と男子を厳しく指導する。



「学級の問題解決力が高まるチャンス！」と考え、当事者、あるいは周囲の友達も巻き込んでよりよい解決策を見いだす話し合いでトラブルを解決する。

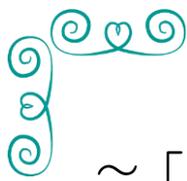
お互いの思い、合唱コンクールの目的・意義、目指す学級の姿など、話し合いを通して、男子は女子の気持ちを理解し、昼休みの練習に参加することになった。男子は思った以上に上手で、女子はすかさず褒めた。

このことから、合唱コンクールへの練習は本格的になり、学級の中に目標が立ち上がった。「合唱コンクールは二度歌おう！」私たちの学校では、優勝学級は最後にもう一度歌うことができた。目指せ優勝！学級の全員が毎日一生懸命に練習した。

いよいよ当日を迎えた。本番は、やり切った実感を得られる見事な歌声だった。しかし、結果は残念ながら準優勝だった。

表彰式後、担任は残念な思いで一足遅れて教室へ向かったが教室には誰もいなかった。学級の全員が二度目を歌うために、体育館で担任を待っていた。担任が体育館に入ったとき、前奏が始まった。いよいよ歌声が響くとき・・・歌声は聞こえなかった。「私はこの学級でよかった。」 「力を合わせて目標に向かって努力できた。」この思いと共に次から次へと涙があふれて止まらなかった。

学級とは何でしょうか。私は、児童生徒の居場所であり、心の拠り所であると共に、「人を育てる場」だと考えています。「人を育てる」源は言葉の力です。この所報が学級づくりのヒントになり、学級づくりに役立てていただければ幸いです。橋本先生を講師に招いた研修は10月20日(水)行われます。「百聞は一見に如かず」小・中学校の別なく、ぜひご参加ください。  
(担当 学校教育課指導主事 加納)



# 「ピア授業」大募集！！



～「ピアサポート」授業づくり事業スタートします！～



教育センター研修部では、10年続いたスーパーティーチャー事業を終了し、新たに上越市の小中学校の先生方の見どころある授業（ピア授業）を紹介し合い、お互いに活用して授業改善に役立てていただこうと「ピアサポート授業づくり事業」を立ち上げます。

**\*ピアサポートとは…**

「ピア (Peer)」は、仲間、同僚という意味で、「ピアサポート」は「仲間同士の支え合い」という意味を表します。また、「Proactive (主体的)・Interactive (対話的)・Authentic (深い学び (本物の学び))」の頭文字をとって「P. I. A (ピア)」という意味も込めました。

**\*ピア授業…**

「ピアサポート」の「ピア (仲間、同僚)」の授業、「P (主体的)・I (対話的)・A (深い学び)」のある授業 の2つから名づけました。

### 「百聞は一見に如かず」「学ぶ (まなぶ) は、【まねる】から？」

授業を参観して学んだり、まねて授業に取り入れてみたり、授業実践記録等を読むよりこれは！という授業を参観した方が自分の授業に生きることが多いものです。

そこで、以下の場面を含むような授業（ピア授業）をされる先生方を自薦・他薦で大募集します。

**\*ピア授業のポイントは、次のような授業場面です。**

- ①子どもをくぎ付けにし、本時の学びへの動機づけをする巧みな導入
- ②子どもの思考がゆさぶられ、「わかった」「できた」を実感する山場
- ③子どもに学びの実感を得させる巧みなまとめ (終末)
- ④工夫された学習課題による主体的・対話的な学習活動
- ⑤効果的な学習形態や思考ツールによって子どもの学びが深まる学習活動 等々



### く ①子どもをくぎ付けにし、本時の学びへの動機づけをする巧みな教材と導入例 く

J中学校のO先生は、中学3年理科「力の分力」の導入で「これからマカロニを使って橋を作ります！」と課題提示をしました。「えー！マカロニって食べるマカロニでしょう？」生徒はびっくりです。その後、生徒はこれまでの学習を振り返り、夢中になって取り組みました。この導入の様子を、実際の映像で見たいと思いませんか？

先生方の負担にならないよう、教育センター担当や指導主事が、推薦いただいた授業者の動画を撮らせていただきます。10～15分程度で、導入、山場、終末のように、見どころの場面ごとに選定して収録します。また、校内の研究授業で撮影され公開可能な動画でも結構です。授業丸ごとでなくとも、授業の最初で使える小ネタや日々の授業のアイデアも想定しています。

それらのデータを joetsu.ed.jp のアカウントのみが閲覧可能な限定公開ページで自由に見ていただき、日々の授業や職員研修等で役立てていただけるよう計画しています。限定公開に向け、公開ページを鋭意準備中です。情報をお寄せいただけると幸いです。

(担当 教育センター指導主事 品田)